

おいでん・さんそんSHOW

6月号
2021.06.01発行



設立当初からセンター長を務めてきた鈴木辰吉(右)と5月より新センター長に就任した田中茂樹(左)

特集 8年間センター長を務めた鈴木と新センター長・田中の対談 これからも推し進めていく自治の営み

こんにちは!
私があなただの地区の
山村地域在住職員です!

豊田市は、山村地域に暮らしながら市職員として働く制度を導入しています。足助、旭、稲武、小原、下山の支所で4月から働く山村地域在住職員5人を毎回ご紹介していきます。

第1回 足助支所 大橋昌秀さん



前職は、アパレル業界にいました。店舗へ外向きお客様のニーズを読み取ってサービスの向上やトレンドを感じ、主に商品の開発と仕入に携わっていました。コロナ禍になるまでは、商品展示会がある時期に毎週東京へ出張し商品開発や仕入れをしていましたが、コロナ禍後はリモートでのやり取りになってしまいました。意外と慣れてしまえば取引先とリモートでの交渉もできてしまうものです。リモートではないほうがやり易いですが。

私は、8年前から足助に住んでおり、毎週の東京出張や東海三県各地への勤務も足助から通勤していました。現在のリモートワークの環境やそもそも山間部からでも都心部へ通勤できる!そんなことを伝えていたならと考えられています。また山間部の観光資源も前職の経験を踏まえ、より活性化させていきたいです。

プロフィール

出身地は愛知県海部郡大治町です。県下で人口密集度数2位の名古屋市の西側に隣接する町です。年齢は41歳で妻と娘2人がいます。趣味は1年前からはじめたゴルフです。なかなか上手くなりません。バスケットボールも足助地区でやっています。

イベント情報

ミライの職業訓練校 受講者募集

『ミライの職業訓練校』は、豊田市の山里をフィールドに、今の働き方の中で感じる“モヤモヤ”を深め、自分がやりたいことを見つけ、仲間とともに切磋琢磨しながら、カラダとココロが喜ぶ「あなたの天職」を探すための学校です。「否定しない、結論を出さない」というルールのもと、誰もが安心して話せる場です。

- **グラドルルール**
- 自分と他人を否定しない ■ 結論を出さない ■ “モヤモヤ”をスルーせず育み深める
- **募集対象**
- 中学生から大人まで はたらくことにモヤモヤを感じている人 ■ 今のはたらきかたを見直したい人 ■ 田舎ではたらくことを模索している人 ■ ミーティングアプリZoomによるオンライン参加可能な人
- **定員** 15名程度
- **コース** 本コース [10,000円/年6回] ※中高校生割 [3,000円/年6回] お試し参加 [3,000円/回] ※中高校生割 [500円/回]
- ※途中退会の場合は、経過分の回×2,000円を差し引いて返金します。※その他、オフ会で必要な実費のみ負担があります。※受講中の活動内容、写真などはパンフレットなどで使用する場合があります。

- **スケジュールと内容**
- **基本スケジュール**
- 10:00~12:00午前の部 12:00~13:00ランチタイム 13:00~16:00午後の部
- 【第1回】7/3(土) 10:00~16:00 オリエンテーション自分史ワークショップ
- 【第2回】7/25(日) 10:00~16:00 先輩インタビュー対談×高野雅夫校長 もやもや語り
- 【第3回】9/4(土) 10:00~16:00 戸田友介講話・当事者スゴロクワークショップ
- 【第4回】10/24(日) 10:00~16:00 先輩インタビュー対談×高野雅夫校長 もやもや語りと仮説ころがし
- 【第5回】12/5(日) 10:00~16:00 高野雅夫校長講話 もやもや語りと仮説ころがし
- 【第6回】1/16(日) 13:00~16:00 みんなの成果報告会

● **参加形態**
対面もしくはオンラインZoom、対面の会場はつくラッセルまたはすげの里等対面の場合もオンライン参加者を考慮して、ZOOMにて講座に参加していただけます。会場にノートパソコンなどZOOMが使えるものを持ち込みしてください。(社会情勢および要望に応じてオフ会を開催)

● **申込方法**
氏名、住所、電話番号、メールアドレス、志望動機(400字程度)をご記入の上、ホームページ(<http://sb-ken.com/miraino/>)の受講申込ボタンから必要事項記載の上送信ください。電話(0565-62-0610) FAX(0565-62-0614)でもお申込み可能です。

● **申込締切** 6月30日(水)
【プライベート開催(オンライン)】



日時 2021年6月5日(土) 19:00~21:00
参加形態 Zoomウェビナー(チャットを使用して質問できます)
参加費 無料
申込期限 2021年6月4日(金) 12:00
内容 高野校長講話、高野・代表世話人 戸田友介・過去の受講生2人をお招きしたクロストーク

プライベート申込は、こちらから



この度、当センターは鈴木辰吉に代わり、田中茂樹を新しくセンター長として迎えることになりました。2013年8月の設立当初から8年間、任務を全うしてきた鈴木は、センターを運営する(社)おいでん・さんその代表理事として在籍することになりました。

今回の特集では、旧センター長鈴木にこれまでの8年間の振り返りをしてもらいました。また、新センター長田中には、これまでの豊田市役所での経験について聞きました。そして両名に、これからのおいでん・さんそんセンターについて熱く語ってもらいました。

8年で見えてきたこと

まずは鈴木前センター長、これまでの8年間を振り返ってください。

鈴木 8年で見えてきたことが主に2つあります。一つ目は、中間支援が



2013年8月のセンター開所式の様子

有効だということ。センターを立ち上げた当初中間支援が課題解決、農村の過疎化、集落の消滅等に対してどんな役割を果たしているかというのがわかりませんでした。8年で都市部と山村地域のマッチングを350件くらいやってきた中で、株式会社ワイズ、足助高校、獣肉処理施設山恵がコラボしてできた猪肉カレーなど代表的な事例が出てきました。中間支援というのは効果があるという確信が持てました。2017年には、(社)おいでん・さんそんが運営する形で民営化し、官の信用と民間の迅速さ、柔軟性、専門性をミックスしたことで良い成果が出たと

思っています。

もうひとつわかったことは自治の営みが持続可能な地域や社会をつくるということ。過疎地に移住者を受け入れることで、人口の減少が抑えられます。そのためには大家さんに空き家を提供してもらわなければならないように頼む。自分たちで自分たちの集落の未来を真剣に考え



だと感じていました。現在の福祉は困っている方を福祉サービスで支えるだけではありません。どんな人もひとつの個性として社会に関わり続けていきたいと思います。このことを推進していくことで自立支援を行う、そんな福祉の仕事に携われるということに充実感を感じていました。

田中新センター長へ期待すること

— 鈴木代表理事から田中新センター長に期待することは？

鈴木 「WE LOVEとよた条例」は豊田市民自らが豊田市を「わくわくする世界一楽しいふるさと」にしていくために制定されました。これは、自治を取り戻すための条例でそれを作った張本人が田中茂樹さんという人。

田中さんがやってきたことは、センターが今後も推進していく「自治を取り戻す」ということと重なります。田中さんの経験に期待したいと思います。

センターはこの8年間、スタッフそれぞれのネットワークや知見を最大限生かしてきました。田中さんが入ったことで、センターの持つネットワークはさらに広がることになるでしょう。

い。普通だったら個人の財産にものを言うなんてことはしないものだが、それをしなければ集落が消滅に向かってしまう。それでは困るということ。集落全体で空き家を貸してもらおうように頼む。自分たちで自分たちの集落の未来を真剣に考え



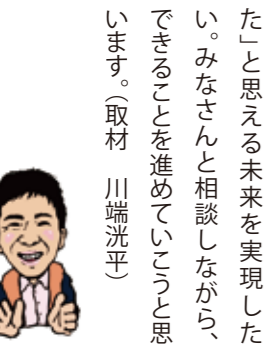
う。また、私は生まれも育ちも旭地区ですが、田中さんは豊田市のまちから通うことになりました。都市からの新しい視点でセンターに新たな風を吹かせてくれることも期待しています。

今後に向けての抱負

— 今後、センターで取り組んでみたいことを教えてください。

田中 都市側に住む人間として地域を見ると、自治の担い手が確保しづらくなっていることを感じます。一方で豊田市の山村部の自治は地縁、人間関係がしっかりしており、学べることが多い。この山村地域の自治のあり方をまち全体に広げていけるような取組をしていけたらと思っています。

これまで8年間、鈴木さんを中心としてセンターのみなさんが築いてきた実績は非常に重要な財産だと感じています。この成果に都市側の人間としての視点を加えた活動を行っていくことで、まちといなか双方の市民が「豊田市に住んでいてよかった」と思える未来を実現したい。みなさんと相談しながら、できることを進めていこうと思っています。(取材 川端光平)



ることができてはじめて移住者を迎えることができます。センターは、例えば「空き家にかかりプロジェクト」などで、山村地域が自治を取り戻すお手伝いをしてきました。

最近では、自分たちだけでがんばり続けることが自治ではないということもわかってきました。今年2月に主催した「いなかとまちのくるま座ミーティング」でお招きした井上岳一さんが「自立するということとは、たくさん依存先があるということ」だと言っていました。地域で言うなら関係人口など支援してくれる人・団体を増やすことで、「自治できる」ことにつながります。

田中新センター長のこれまで

— 田中新センター長は市役所で

豊森なりわい塾やミライの職業訓練校などの人材育成事業を卒業した人の中には、地域のサポーターになる人が出てきました。地域の自治のために、人材育成には今後さらに力を入れていく必要があると思っています。

どのような業務に取り組んでいましたか？

田中 「WE LOVEとよた条例」という条例作りに携わっていました。この条例は以下の3つが基本理念です。①互いを尊重しながら、とよたの魅力を自由に楽しみます。②とよたの魅力を周りの人々に伝え、共に楽しみます。③互いに協力しながら、とよたをもっと楽しくします。

この条例はとよたの魅力を次の世代に引き継いで持続可能なまちを実現する条例で、このまちをもっと良くしよう、楽しくしようという思いのある多くの市民の方に参加してもらって議論しました。その時にセンターにも声をかけて山村地域の人を紹介してもらいました。参加者のみなさんが真剣に考えてくださったって条例ができました。ひとつひとつの言葉に市民の想いがこもっている条例ができたかなと思っています。

福祉の業務にも携わってきました。福祉の仕事は大変な仕事と言イメージがあつて確かに現場は大変。しかし福祉というのは行政においては基本の仕事

REPORT 「古民家」オープニングミニ音楽祭

萩野自治区桑田和町に新たな拠点

5月8日(土)に足助地区桑田和町で行われた、「古民家」でのミニ音楽祭には地域の方はじめ、所縁のある方々がリラックスした雰囲気の中集っていました。

ゲスト演奏者は岡崎のハーブ奏者畔柳美佐子さん、旭地区在住の音楽ユニットDuo le lien、地元桑田和町在住音楽ユニットのモーニングセット。それぞれ個性的であり、地に足をつける生き方が伝わる素晴らしい演奏でした。Duo le lienが萩野小学校の校歌を歌いあげた際には、あちこちで口ずさんだり体を揺らす様子が見られました。

萩野小学校の道路をはさんだ向かい側にあるこの古民家は、地元住民の山本薫久さんが同じ地域の方から買い取り、色々な人たちと楽しく活用できる場づくりを始めたものです。元々移住者でもある山本さんは、10年ほど前から市街地から通う人たちと桑田和町の田んぼで稲作を始めました。その後、続々と田んぼをやりたい人たちを受け入れ、今では地元の若い人たちも始めています。これら田んぼを通じて広がった人の輪と、地域の人たちの輪が古民家を通してより大きくなっていくようです。

「(前略)古民家が喜ぶことをしようか。/ご近所も助っ人も客人も、子どももお年寄りも、土地のかみさまも喜ぶこと、したいなー。/そうすると、田んぼも畑も山も、集落も、学校も、ますます元気に

なるさー。(後略)」。音楽祭のチラシに書かれたメッセージです。この場を拠点に人々が喜びながら元気になっていく。集う人々の姿に具体的なイメージが湧いてきます。

古民家はまだまだ床の抜け落ちや屋根のサビなどがあり、これから改修などしつつ、より使いやすい地域の拠点として成長していくそうです。管理は地元の有志などが協力すること。人が人をつなげ、楽しそうな場がまた人を呼び、アイデアが生まれ面白い企てが育っていく。山里の幸せな未来を感じられる1日でした。

古民家に関する問い合わせ先は山本さん(萩野NPO結の家代表)090-5453-6411まで。



演奏に聴き入る参加者



演奏者のみなさん



人材育成事業「豊森なりわい塾」の様子



地域の移住定住勉強会で出前講座を行ってきた



「WE LOVEとよた条例」について掲載された冊子